

◆企業概要

社名：株式会社研電社
代表者名：石飛 龍一
住所：島根県出雲市長浜町1372-15
事業内容：固液分離装置の設計製作
 脱水機的设计製作
従業員：31名



◆事業内容

株式会社研電社は1958年の創業以来、環境関連機器の設計・製造・販売・メンテナンスを行っている。主力製品は「固液分離装置（スリットセーバー）」である。

固液分離装置とは、一般的に下水道排水処理・畜産施設汚泥処理、そして産業排水処理時のし渣除去・汚泥濃縮で用いる設備である。独自の機能により逆洗浄水が不要であることが特徴である。

納入実績台数は1,200台以上にのぼり、日本全域で採用されていることに加え、海外では豪州・北中米・東南アジア・欧州など多くの実績がある。

その他汚濁脱水機（スリットセーバーシステム）や電気浸透脱水機等、様々な環境関連機器の設計・製造をしており、第5回ものづくり日本大賞中国経済産業局長賞（2013年）や第43回優秀環境装置表彰中小企業庁長官賞（2017年）を受賞する等、高い評価を得ている。

また、これら機器のほとんどは自社で製造・組立を行っており、お客様の様々な要望・納期・アフターサービスに柔軟な対応が可能となる。

◆知財への取組

同社の主力製品である「固液分離装置（スリットセーバー）」（特許第2017365号）は、1990年に特許出願し、同社にとって、下請けではなく、自社独自の製品を提供するメーカー企業となる、大きな転換期となった。

その後、地道な営業活動を通じ、製造業や畜産業など、様々な業界に展開。競合他社もひしめく中、顧客のニーズに応えるべく地道に技術改良を繰り返した。同社は装置の改良を行うたび、長期的な技術優位性を確保し、装置の販売を促進する目的で、周辺特許の取得を行った。

また特許だけでなく、自社商品名を守るため、製品名の「スリットセーバー」についても商標出願を行い、2003年に国内において商標登録（商標第4687887号）となっている。

◆外国出願補助金利用の背景

同社は、スリットセーバーの更なる拡販を目的に、海外での商談会や市場調査を経て、2015年には合弁会社C. C. KENDENSHA Co., Ltd をバンコクに設立。

しかし、海外展開を進める中、模倣品のリスクや外国企業とのライセンス契約など、海外で展開していく難しさを実感。

INPIT島根県知財総合支援窓口の支援により、知財戦略エキスパートや海外に精通した弁護士の助言の中で、海外展開において、製品販売だけでなく、知財の大切さやブランドの重要性を再認識した。

そこで、2018年に「固液分離装置（スリットセーバー）」の改良技術に関する特許を米国と中国に出願、2021年に米国特許を取得。

また世界共通のブランド名として海外販路の拡大を目的に、自社の社名である「KENDENSHA」(商標第6708709号)を、主要な販売先である北米(米国・カナダ)・欧州・タイ・ベトナム・韓国の計6ヵ国・地域に商標を出願し、2024年に米国と欧州で、2025年にベトナム・韓国で、2026年にカナダでそれぞれ商標登録を受けた。

これら海外出願を行うに当たっては、INPIT島根県知財総合支援窓口から外国出願補助金制度を紹介してもらい、当補助金を活用した。

◆外国出願による事業効果

特許や商標登録が得られたことで、展示会や商談会等積極的な海外展開が可能となり、現在までアジア、欧州、北中米、中東、アフリカ等、約15ヵ国に「固液分離装置(スリットセーバー)」の導入実績を得ることができた。

今後も積極的な海外展開とともに、「KENDENSHA」を世界共通ブランドとして、自社ブランド力の向上を図っていく計画である。

◆これから補助金を活用する企業へのメッセージ(代表取締役 石飛 龍一氏)

今回はPCT出願[※]を米国と中国に国内移行しましたが、PCT出願は各国への移行期間が優先日から30ヵ月あることから、各国の市場動向を見極めながら、それぞれ特許を取得(移行)するかどうかを検討できたので、その猶予期間を活かして、2ヵ年にわたり補助金が活用できたことが大きなメリットでした。

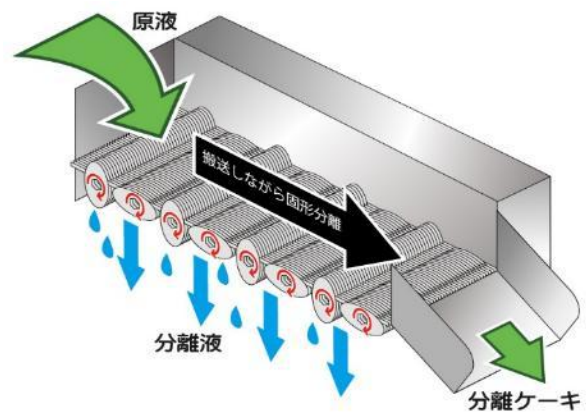
※PCT出願は、特許協力条約(PCT:Patent Cooperation Treaty)に基づく国際出願制度。

ひとつの出願願書を条約に従って提出することによって、PCT加盟国(現在158ヵ国が加盟)であるすべての国に同時に申請したことと同じ効果を与える出願制度。

原則30ヵ月以内に権利を取得したい国に対し、翻訳文の提出等の移行手続を行う必要がある。



米国での展示会風景(写真中央が石飛社長)



スリットセーバー®の内部構造(研電社提供)